

高齢者住宅入門

その違いを
分かりやすく



高齢者や要介護者を対象にした施設の種類の種類は非常にたくさんあります。有料老人ホームには「介護付」「住宅型」「健康型」の3種類がありますが、その比率は介護付が全体の7割を占めます。以下では、「介護付有料老人ホーム」と「住宅型有料老人ホーム」の違いを、表を使って説明します。まずは施設の種別ごとの特徴をしっかりと理解してから、**利用者の介護度や健康状態に合わせて介護施設を探す**必要があります。今回は「**有料老人ホーム**」と「**サービス付き高齢者向け住宅**」について説明します。

有料老人ホーム (介護付・住宅型)

食事、居室などの特徴は同じですが、一番の大きな違いは、**介護サービス料金**で、介護付の場合は介護度に応じたパック料金、住宅型の場合は、使った分だけ支払う**積み上げ式料金**というところです。必要な介護サービスを考え選んでみましょう。

介護付

ケアスタッフが365日24時間ホームの中に常駐しており、必要に応じて介護サービスを受けるところが出来る。
施設内でさまざまなケアを受けることができ、施設によって人員配置が違っており、それによってケアスタッフの数が違う。介護サービスは介護度によって決まっており、定額料金となっている。

施設内に看護職員が常駐し、薬の管理や医療行為を行う。大半の施設では「9:00～18:00」の勤務体制だが、24時間常駐している施設もある。

施設内でリハビリを行う。「機能維持の為に生活リハビリ」が中心。
リハビリの専門家である理学療法士や作業療法士が常駐している施設もある。

施設内で3食提供される。提供の際は、その人の状態によって塩分調整なども行ってくれたり、食事の形態(さざみ食、ソフト食など)や治療食などの対応をしてくれる施設もある。

定期的に協力医療機関の医師が往診に来てくれる。基本的に緊急時は医療機関へ搬送される。

18mが標準的。トイレ・洗面がついている。多くの居室に浴室やキッチンがついていない。
※施設によってはトイレがついていない所もある

金額は施設によってさまざま、0円から数千円と幅が広く、立地や初期コストなど様々な要素でその金額は変動する。最近では入居金0円や低価格ホームも多数オープンしている。

金額は地域によって上下する。東京エリアで25～30万円が相場、神奈川エリアで20～25万円が相場、埼玉や千葉では20万円前後が相場。内訳は管理費・水道光熱費・家賃などで、月額利用料の他には日用雑費、オムツ代、介護保険自己負担費用・医療費などが別途かかる。

住宅型

施設内で介護サービスを受けられることが出来る介護付とは異なり、「食事サービス」と「日常的な生活支援サービス」を行うにとどまり、介護サービスが必要な場合は、外部のヘルパーを利用してサービスを受けることになり、施設が提供するサービスに応じて職員を配置するようになっている。利用すればするほど月の利用料がかかる積み上げ式料金となっている。

看護職員の配置基準は決められていない。看護職員が常駐していない施設や日中帯(9:00～18:00)のみ、24時間常駐などさまざま。

外部の訪問リハビリや、通所リハビリのサービスを利用する。施設内に訪問・通所サービスを併設し、サービスを提供している施設が増えてきている。

施設内で3食提供される。提供の際は、その人の状態によって塩分調整なども行ってくれたり、食事の形態(さざみ食、ソフト食など)や治療食などの対応をしてくれる施設もある。

定期的に協力医療機関の医師が往診に来てくれる。基本的に緊急時は医療機関へ搬送される。

18mが標準的。トイレ・洗面がついている。多くの居室に浴室やキッチンがついていない。
※施設によってはトイレがついていない所もある

金額は施設によってさまざま、0円から数千円と幅が広く、立地や初期コストなど様々な要素でその金額は変動する。最近では入居金0円や低価格ホームも多数オープンしている。

金額は地域によって上下する。東京エリアで25～30万円が相場、神奈川エリアで20～25万円が相場、埼玉や千葉では20万円前後が相場。内訳は管理費・水道光熱費・家賃などで、月額利用料の他には日用雑費、オムツ代、介護保険自己負担費用・医療費などが別途かかる。

保存シート

サービス付き 高齢者向け住宅(サ高住)

日常生活や介護に不安を抱く高齢の単身者や夫婦のみの世帯のために、**バリアフリー構造のハード面や安否確認などの一定基準を満たしており**、必要に応じて訪問介護などの福祉サービスを利用しながら生活を送る**高齢者向けの住宅(シニアマンション)**です。

ケアの専門家(介護職員実務者研修・または介護職員初任者研修など)が少なくとも日中**建物に常駐して最低限の安否確認と生活相談サービス**を提供。
従来の在宅サービス(訪問介護、訪問看護等)や、24時間対応の定期巡回・随時対応サービスを利用。

基本的には**常駐していない**。

リハビリに取り組んでいる施設はあるが、一般的には**外部の通所リハビリや訪問リハビリ**を利用する。

施設内に併設された食堂(レストラン)を利用するケースや配食サービスを利用したり、**施設によって食事サービスの形態は様々**。

協力医療機関と「連携」している所が多い。

25㎡が標準(最近では18㎡前後の居室が増えてきている)。
トイレ・洗面・浴室・キッチンがついている(最近では浴室、キッチンが共用のみという所も増えてきている)。

有料老人ホームと異なり、「**敷金**」という形で支払う施設が多い。
家賃の〇か月分～〇〇か月分(施設によって異なる)。

地域によって上下する。
15万円前後(施設により異なる。食費は含まれない)。

図解で比べる

A 介護付有料老人ホームとB サービス付き高齢者向け住宅・住宅型有料老人ホームの違い

